



大門中だより

<http://www.higashikurume-school02.jp/~dai-j/>

東久留米市立大門中学校
〒203-0011 東久留米市大門町2-13-8
Tel: 042-474-1753 fax: 042-472-7997

令和4年9月5日発行

校長 若澤 直樹

2 学期スタート 始業式講話より 様々な体験を大切に

夏休みが終わっての2学期始業日、子供たちにとってはリズムを取り戻すための一日、気が重い生徒もいたと思いますが、それぞれの夏の課題をバックに抱えてスタートを切りました。始業式では次のようなお話をさせていただきました。

まず、皆が元気に登校できたこと、良かったです。

暑い日が続いていたと思ったら、涼しくなり、体調を崩した人もいるかと思いますが、でも、今日皆さんが登校できたということ、良かったです。

どれだけ気を付けていても体調を崩すことはあります。新型コロナは幾分新規感染者が減ってきたとはいえ、まだ第7波、大きな感染増加の波の中です。夏休み中にかかってしまった人から聞いたのですが、軽い症状で熱もすぐ下がったという人もいれば、40度近い高熱がずっと続いて苦しかったという人もいます。安心は禁物です。手洗いや給食の黙食など、基本的な対策を続け備えましょう。

さて、夏休みの期間それぞれどのような時間の過ごし方をしてきたでしょうか。部活動や校外の活動で自分の力を伸ばした人もいます。

甲子園で行われた夏の高校野球選手権大会に君たちの先輩、大門中の卒業生が出場していました。埼玉代表の聖望学園というチームです。2回戦の対戦校は大阪桐蔭、優勝候補と呼ばれていた強力打線のチームです。聖望学園は初回から点数をとられ、苦しい展開の中、途中からピッチャーとして投げるようになった君たちの先輩は、どんな気持ちでピッチャーズマウンドに向かったのでしょうか。辛いプレッシャーも感じていたかも知れません。なんとか抑えなければという強い責任感で向かったのかも知れません。大阪桐蔭高校の強力な打線に向かって投げる、その気持ちをいろいろ想像しました。

試合の結果は19対0と厳しいものでした。君たちの先輩は今悔しい気持ちが大いかも知れません。しかし彼が社会に出てこの時のことをどう思うかという、きっと大切な、とても貴重な経験と考えます。どんな経験も学びになります。勝ち負けや、試合の大小は問題ではありません。試合でなくても苦しかった練習の一場面でも記憶に残れば、それは大切な財産になります。

例えば君たちが部活動で経験して知ったことはいずれ大人になり社会に出てから、苦しかった練習を乗り越えたこと自体が仕事上での自信になることもあると思います。もしかしたら生涯スポーツとしてその種目を続けたり関わることもあるかも知れません。また、その種目の試合をテレビで見るとき、きっと他の人より深く選手の苦労や駆け引き等を想像しながらの濃い、味わい深い見方ができるはずです。

スポーツ以外でも、面白い本に出会えた人も、新しい趣味に興味を持った人もそれは大切な出会いです。特に自分は何もなかったという人も、きっと何か見たことや聞いたニュースなどについて考えたことがあるはずだと思うのですが、どうでしょう。

自分では気がつかなくても、久しぶりに会った先生たちから見ると、「おっ、この人は成長したな」と感じられることもあります。心の部分の成長のことです。

皆さんも友達やクラスの人言葉や行動から成長を感じることは無いでしょうか。日々皆さんは心も成長しています。しかしその成長のためには自分以外から何かを感じ、経験し、考えることが必要です。友達の成長を感じ取れたら、それも自分の成長につながります。2学期には、3年生は修学旅行、2年生はTGGや職業体験、1年生は校外学習と行事が目白押しです。成長するための経験を積んでください。

しばらくぶりに会う仲間から成長を感じながら、2学期も自分を成長させていきましょう。先生たちも皆さんの成長を見ることを楽しみにしています。

夏休み明けは生活リズムの切り替えにともなって、また、成長と共に気持ちの不安定さが出る時期でもあります。

学校生活の中でも一人一人を見守り・サポートをしていくため、学校では1学期に行ったアンケート、「QUテスト」の結果分析を夏季休業中に行いました。御家庭でもお子様の様子で気になる点がありましたら、どうぞ御連絡ください。

